



田島中学校区 将来の学校を考える会 ニュース

平成30年2月9日発行 第2号

こどもの将来、学校の将来、まちの未来



生野区では、教育環境の充実、子育て環境の充実、災害に強いまちづくりを通じて、まちの活性化をめざす「生野区西部地域学校再編整備計画」を推進しており、議論のたたき台となる「田島中学校区学校整備計画(素案)」をもとに保護者・地域住民のみなさんと具体的な意見交換を進めています。

田島中学校区 将来の学校を考える会(以下、「考える会」といいます)(第2回、平成30年1月31日(水))が開催されましたので、議論内容をご報告いたします。

第2回考える会で意見交換されたテーマ

- (1) 学校再編にかかる総論(考え方)について
- (2) 小中一貫校について

(1) 学校再編にかかる総論(考え方)について

区からのご説明内容

- ✓ 「素案」は、子どもたちにとってより良い教育環境づくりに向けて、保護者・地域のみなさんとの意見交換を深めていくための骨子として作成しています。今後、意見交換を重ねながら内容を肉付けし、(案)を策定していきます。
- ✓ 田島中学校区の2小学校は、いずれの学校も一部の学年を除き、各学年1学級で推移していく見込みとなっています。
- ✓ 小規模校は、児童に目がとどきやすいというメリットがありますが、中規模・大規模校でも、習熟度別・少人数制の授業などにより、児童に目がとどくよう工夫をしています。小規模校のメリットを残しながら、適正規模化をめざしていきたいと考えています。
- ✓ 小規模校では、たくさんの人と出会い、付き合い方を覚える機会が少なくなってしまうなどのデメリットがあります。また、人間関係の固定化への対応という面からも、クラス替えができることはメリットの1つとなっています。
- ✓ 生野区を教育に強いまちにするという思いで、子どもたちの未来を生き抜く力を育てるために、教育内容やソフト面で目指すもの、特に力を入れていきたいものを「生野の教育」(2ページに掲載)の3つのキーワードとして取り組んでいきます。



(1) 学校再編にかかる総論（考え方）について

「生野の教育」 3つのキーワード

今の課題解決の上に「次世代の学校」の3本柱を立てる

現状の課題解決



安心・安全な学校づくり

不登校・虐待・こどもの貧困などの課題に学校と行政、地域が連携する仕組みを構築



教員の指導力向上

教員が学びあうための環境整備・学校支援・研修・研究指定など

「生野の教育」 3つのキーワード

基礎学力を身につけ、
学び続けるための
自立（自律）学習

学んだことを
活用する

学ぶ意欲
目標を持つ



自分を知り、視野を
広げ目標を持つための
キャリア教育

課題を解決し、新たな
教育を実現するための
チーム学校

地域・外部講師
による支援

小中一貫で実施する
とより効果が高い

課外学習支援

学校・教員支援

いただいた主なご意見



★ 学校再編だけではなく、地域の人口が増えるような地域活性化の取組も図るべきではないか？

どうすればこの地域に子育て世帯が移り住んでくるかを考える必要があります。その中で、区において空き家対策などの取組も進めています。よい学校をつくることは、地域とつながって子育てをしたい世帯を呼び込む取組を含めたまちづくりの1つとして、併せて進めているところです。

行政

(2) 小中一貫校について

区からのご説明内容

- ✓ 大阪市では、義務教育の9年間を通して、子どもたちをしっかりと見ていくことが学力、体力、心の成長に効果があると考え、すべての小中学校で「小中一貫した教育(小中一貫教育)」の取組を進めています。
- ✓ 田島中学校区において提案している小中一貫校は、全市募集を行わず、地元の子どもたちを対象にした学校を考えています。施設一体型小中一貫校を想定した教育活動イメージは次の図のとおりとなっています。

田島中学校区 小中一貫校の教育活動イメージ

○小中一貫校は施設が一体であるという利点を活用する

一部教科担任制や小中教員のTT等の導入

小学校教員が中学校の授業へ入り込み生徒のつまづきに対応する等教科指導の充実
⇒ 教員の指導力の向上にもつながる

○小中一貫教育で教育効果を高める

小学校との指導方針の共有、明確化

小中の違いを超えたルールの明確化
発達段階に応じた指導
⇒ 指導の継続性・系統性



【運用面での課題の克服】

○学校運用面での工夫が必要

既存施設の有効活用

新校舎で運動場を東西に分割し、小学生の活動場所を確保するなどの工夫

○小学校高学年のリーダーシップの育成

異学年交流や節目行事の工夫

指導区分(4・3・2制)に基づく節目行事、ペア学年等の縦割り活動の検討、新たな枠組みの考え方
⇒義務教育9年間を一体ととらえる

○教員の負担増への対応

外部人材の活用や教員の加配の検討

新たなカリキュラムへの対応(小中一貫したキャリア教育等)や、きめ細やかな指導

いただいた主なご意見

○小中一貫校について

- ★ 小中一貫校では、中学生は小学生を見守る意識が強いといった話も聞いている。
- ★ 小中一貫校の実態などを聞いてみたい。



小中一貫校への視察の際に聞いていただけます。平日の子どもたちが学校にいる普段の様子を見ていただきたいと思いますと考えています。

また、小中一貫校の先生の話によれば、「中学生の特徴として小学生のときから知っている先生の話はよく聞いている」「子ども同士は仲良くなるのが早い」「一般的な学校と同程度の課題はあるが、それ以外に大きな懸念は聞いていない」とのことでした。

行政

- ★ 他区の小中一貫校がある地域の方に聞くと、統合後のデメリットとして、地域外から多くの子どもたちが来ることから、地域の学校ではなくなったとの声を聞いている。

地域の方から見れば、地域外から学校に通う子が多くいることからそのように感じられているのではないかと思います。

田島中学校区の再編後の小中一貫校では、全市からの募集は行わず、校区の子どもたちを対象にした学校を考えています。

行政

いただいた主なご意見

○これまでの経過について

- ★ 当初、地域から「田島中学校の校地に新しい小学校も設置してはどうか」と質問したときに「できない」との回答であった。当時の経緯を改めて確認したい。

当初、『仮に田島中学校の校地を活用する場合は施設の増改築が必要となり、十分な運動場の面積が確保できないなどから、田島中学校の校地では設置できないと判断した』と説明していました。（詳細は『「生野区西部地域学校再編整備計画」説明会でいただいた主なご意見・説明会后にいただいた主なご意見とその回答』のQ52をご参照ください。）その後、説明会の場で、保護者や地域の方より、通学路の問題も含め、田島中学校での整備を再度検討してほしいとの意見をいただき、子どもたちにとって何が良いのかを考え、プールを屋上階に設置するなどの経費的な課題も含めて教育委員会事務局と調整を行い、その結果、田島中学校の校地での小中一貫校の案も併せて提示させていただくことになりました。

行政

○新校舎について

- ★ 現在の田島中学校の校地に新校舎を増築する案だが、図面上では子どもへの目が行き届かないつくりになっているように感じる。死角を作らないよう職員室の配置などの対応を検討する必要があるか。

学校長とも相談しながら、できるだけ死角を減らせるよう職員室の場所を決めていきます。校舎自体はコンパクトにまとまっているので、逆に教員の目が届きやすいのではないかと考えています。

行政

(3) その他

○学校の跡地について

- ★ 小学校の跡地は残すとのことだが、再編の何年後かに跡地がなくなっていたということにならないようにお願いしたい。

大阪市の基本方針は、学校の跡地は売却するとしているが、生野区内は密集住宅市街地になっており、災害時の避難所として必要であることから、小学校の跡地は残していきます。ただ跡地を残すだけでなく活用することで、地域の方や子育て世帯に喜んでもらい、まちの活性化につながる計画を立てられるよう取り組んでいるところです。

行政

○考える会の進め方について

- ★ 建物などのハード面や跡地の議論が多く出ているが、本日は、小中一貫校の内容や教育内容などのソフト面の議論をもっと深め、まずは子どもたちにとってのメリット、デメリットを考えるべきで、会議のテーマに沿った意見交換をしていくべきではないか。



第2回での確認事項

- ✓ 本会議の開催日は、毎月第4火曜日とする。
- ✓ 次回のテーマは「新たな学校の児童・生徒数推移」、「新たな学校の校地」、「開校時期（開校までのスケジュール）」とする。
- ✓ 次回の考える会までに委員による大阪市立小中一貫校への視察を行う。
行き先：小中一貫校むくのき学園（東淀川区）
- ✓ 次回のオブザーバーは、2小学校区それぞれ4名を定員とし、計8名までとする。

学校再編に関する情報は生野区ホームページでもご覧いただけます。

生野区西部地域学校再編の動き

検索



発行

田島中学校区
将来の学校を考える会 事務局
(生野区役所 地域まちづくり課)
電話：06-6715-9920